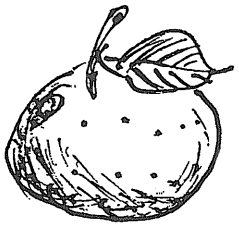
地学漫筆 No. 8

わたしの週間日記

（カットとも） **くらした・のぶお**



12月12日・木曜日

溝の口にいく　午後9時20分　机上の書類整理　10時から部内の課長さんたちに集ってもらって　9日の部長合同のおりの話題の内容説明　とくにその場で方向を決めるほど急がれていることもないので　考えておいてもらうことにして　質問が2，3　11時半ごろ図幅の足立さん来室　部の組織機構の改革についての疑問点をあげ　質問　ただし全く個人的な問題と判断．　12時を廻ったので急いで　昼食のカレーライス　外勤票を机上において　南武線——横須賀線で　東京都庁へ　約束の時刻に2階の企画室にすべり込む　市橋主査ら綜合計画の方から移ってきて　まだ間がなく落着かぬ様子　30分ほど三多摩の地下水自主規制案についての報告　とくに武蔵野・三鷹両市の対策を急ぐよう進言してもらう．

午後3時　日本工業用水協会に回って　午前中の工業用水道補助率値上げの陳情大会の模様をきき　会誌工業用水地下水特集号のレイアウトの残りの部分について相談　一部校正ゲラを受取る　午後4時

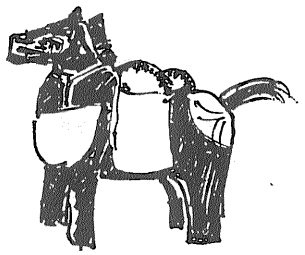
東京駅に直行　国鉄新幹線丹那トンネル掘さくに伴う丹那盆地渇水補償の2度目の調査のため　湘南電車で熱海に向かう　途中から地質部の水島君も乗車　7時熱海着　水島君と指定の梅園ホテルにいく　鉄研の宮島　橋立さんたち　おくれる由連絡があり　水島君と渇水の原因が　雨の少なかったためか　人が穴を掘ったためかで雨穴相斗わせて痛飲　10時半ごろ就寝

12月13日・金曜日

じゅく睡　8時起床　ゆうべわたしたちの就寝直後宮島　橋立さんら到着したらしい．

9時出発　田代盆地に入り前回調査して定めた場所につくったという量水堰　観測井などをみて回る．　この前ボーリング孔から猛烈にエヤーがでているので　不思儀に思い　ガス採取瓶をはるばるもってきたところ　まか不思儀　今日は全然でていない．　この前からの約束で水位の日観測をしている　静幹局の生田工手のはなしだと1週間ぐらいの周期で2日ぐらいつずけて噴いているがそのほかの日には何もでていないという　これだから地質学はむつかしくてこまる‥‥と地質やの宮島さんもがっかり．

午後おそく丹那西口に下がり　静岡幹線工事局の西口工事々務所でサンドイッチの昼食後　濃黄色のナイロン製　大黒さまの衣裳のような作業衣を着用して　丹那トンネル内の採水に入る．　排水トンネルに設けた量水堰などについてあれこれ批評　水温16°C　水比抵抗23,000 ohm-cm　湘南電車がくるたびに風が先回って吹いてくる．　午後5時過ぎ‥‥この前のときは同じ時刻で視界20mぐらいの濃霧のなかだったが‥‥今日は快晴熱海のネオンがぱっと浮きではじめるころ梅園に帰着静幹局長以下調査関係者16〜17名集って観測結果の討論観測計画についての意見交換　熱がこもって午後9時にやっと閉会　それから夕食がでる．　電話してあったのでホテルの裏の中山ボーリングの佐田君会議途中で面会にくる．　事情をはなし10分ほどで別れる．　11時やっと解放されて自由の身．



12月14日・土曜日

10時の上り普通湘南で帰京　ダイヤが乱れていて1本前の準急はこんでいたのに　がら空きの電車にゆうゆうとのる．

12時過ぎ新橋下車地下のキッチンで昼食　地下鉄で霞関の海運クラブにいき　技術士登録の準備講習会に出席する合格したての人たちばかりが150人ほど　科学技術庁の登録担当官のはなしは　かゆいところに手のとどくような　なかなかの親切ぶり　公務員が何故登録できないのかという質問に答えていわく　公務員のなかに技術士がいてよいはずだ　勇敢に登録の手つずきを進めよ‥‥と

一丁やるかなと思う．　肝心のところを聴いてしまえば用はないので途中から脱出　ボーナスがでているはずだしと　溝の口に急ぐ．　今年は10万をいくら越えているかなと　開くまでがたのしみ．　宿直の森さんに熱海のおみやげの干魚を分けて　6時過ぎ帰路につく．
夜は工業用水協会誌　その他1，2の雑誌の校正　たまっていたのを2時間ほどかけて片づけてしまう．

12月15日・日曜日

あさ9時起床　しゃぼてん植物園の世話少々　午後1時から東大理学部2号館で開かれる地質学長期研究計画討論会に出席のため　ひるまえの列車で上京　手荷物のつみ込みで列車おくれ　大学に着いたのは2時ちょっと前　各講師のスピーチのあと4時きっかりから1時間が討論会．　司会者のあいさつ終わって　へき頭第一声をあげるべく挙手　東大の旭君と挙手が重なるが　年令の順でか　優先させてもらう．　広い視野の地球科学者を育てるために大学教授の感覚　思想を改めていってほしいこと　地球科学あるいは地質学最終の目標は　わたしたち人類の自然防衛にこそあることを強調　長期研究計画のビジョンをそこに描けともの申す．

それにしても年のくれも近い　日曜日の午後　暖房もない大講堂のさむざむとしたふんいきのなかでは　真のロングプランもマスタープランも芽生えにくかろう．
地質やさんの貧相さを如実に示しているとまたまた痛感
帰路教育大の中道先生らと喫茶店でしばし会談　化石採取などに興味をもたぬ近ごろの学生のことから現代学生気質の一くさり　午後6時過ぎ帰路につく

12月16日・月曜日

午前10時から定例の部長会同　河田町で開かれるのに出席　定時開会　39年度の事業項目と業務組織の関連について慎重審議　夕刻におよぶ　午後6時から銀座の治作で　Bコンサルタントの地質やさんたちと部長一同会食する約束になっているのだが　議論がなかなか決着せず　ついに約束の時刻まで討論　急いで治作にかけつける．　先方には若い人もいるので　職名と名前が一覧してわかるような表が　各自の席においてある．　グッドアイディアだ．　大学同期の春日君が先方にいる関係で気安く飲みだし　宴果ててからはさらに　そのさそいにのって　ついつい　2次会　3次会‥‥気がつくと翌けて17日午前1時を過ぎている．　Bコンサルタントの三田のクラブでお世話になる．

12月17日・火曜日

4時間半ぐっすり眠って　頭は9分どおり明せきただし洗面具もなしでひげを剃るのに一苦労　いつもながらみそ汁のうまいこと　おかわりを3杯　女中さんにきらわれぬうちにと早々に出発　田町から溝の口に向かう．　藤沢からの半分の時間だから9時前に着いてしまう．　みんな出揃うまでの時間に書類整理と速達での返信1通　用水課の田村さんの出勤してきたところを捕えて　工業用水法特例許可基準の決めかたについて若干のディスカス．

午前10時から部内の課長会同　中沼課長を除いて集まってもらう　昨日の部長会同の問題説明　とくにグループ制度を残して　しかも部課組織をいかす方針についてつとめて具体的にはなす．　そのあと図幅の課長さんにだけ残ってもらって　新しい地質図幅の計画などについて約1時間討論　12時過ぎ中断してもらって　急いで昼食座談会の開会時刻に間に合わせるべく宙をとんで　溝の口駅前へ‥‥

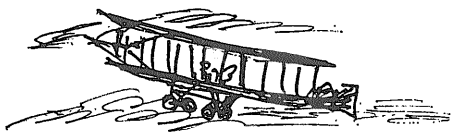
東急バスで渋谷経由　霞が関の商工会館で　工業出版社司会の地下水開発とさく井業界というタイトルの　10人余りの座談会にぴたりと間に合う．　A社　D社のレギュラーメンバー　それに大阪社からの珍客もみえている．教育大の山本博士遅刻の関係もあって　司会者のもとめに応じ　わたしがトップに　将来の地下水開発上の問題点をあげつらねる．　つづいて業界のみなさんが次次に発言を誘導する司会者の司会ぶりなかなかよろしい．

1時間半でおわって　外にでたところで兵庫県の西本和民氏にぱったり会う．　県で水行政を推進している参事室のホープ　来年度の県予算を根拠づけてくれと　たのまれればそのままわかれるわけにもいかず　まあ一杯いきながらというわけで　いきつけのため池えびすやの座敷にあがる．　加古川の還元井の予算986万円の県会に対する働きかけに一肌ぬげとの仰せ　毎年のことながらだんだん重荷に感じてくる．

午後6時過ぎ　軽い食事で切りあげて西本氏は市ガ谷寮に　わたしは東京地学協会の編集委員会にいく．　昼間は集まりにくいので　夜に開く雑誌の編集委員会が増えてきた．　もっとも歴史は夜つくられるというから雑誌の編集も夜の方がしっくり議論できるのかも知れな

い．　和達委員長がすでに司会中で　委員のみなさんさかんにけしかけられている悪い条件のまっただなかにとび込む．　しようかたなく　海面上昇や　新旧国鉄幹線が丹那断層を直角に横切って　死活をともにしなければならない国土の交通宿命論を　ユーモラスに書いては如何と提案　もっとも　たいていの場合そうなのだが　提案者は自ら書かさせられる覚悟がいるらしく　どうもそれで各委員ためらい中らしい．　何のことはない　できるだけ小出しにして　意見をいうのが得策というわけである．　車賃300円　帰りに新橋までタクシーにのってたばこを買ったらそれでチョン

10時帰宅後　雑誌の校正　短文を一つ　葉書を4～5枚　それから　第一生命から依頼されていた神奈川県大井町16階築ビル建物のための許可書に必要な地質かん定書の執筆をおもい出して　起草　夜中の2時までかかる．



12月18日・水曜日

明らかに寝坊する．　3級出勤　つまり朝食はせずに横浜で駅弁を買うこととし　8時29分　藤沢発の湘南にのる公務員としては公私とも最悪の出勤条件だ．　つまり正常に朝食をすませて　7時56分か8時6分の湘南にのれば　1級出勤　だが　それには少なくも1時間以上の時間が不足．　もっとも車中　溝の口まで雑誌の原稿の粗稿をつくったので　時間は大分とり返せた　書類整理　部員の出張復命書3～4　地質図幅と化石の研究報文各1にざっと目をとおす　大林君の原稿はいつも見事な書きつぶりで　感心させられる．

10時前　東和工業の惣田　武崎両氏来室　惣田君とは旧知の間柄　お互に技術士試験に合格したことを祝い合ったあと　イオン交換樹脂の優劣談議およそ30分　国産のそれが　もっとも某社のはよく　よいと思っていた某社のがわるいという新事実にいささか驚く．

10時半から約束してあった　第四紀地域の地質図幅をつくるための準備会を開く．　候補図幅選定まで何とかこぎつける．　その代償としてせっかくの昼食のそばがすっかり伸びてしまっている．

昼食後　工業用水課の雑務処理　そこへヤマトボーリングの佐藤氏来所　さく井順調の旨報告をきいて安心する．　なにしろ研究中の新工法だから気が気でない．
途中地学協会の村越さんから電話あり　学会の評議員に立候補に立ってくれないかとの申しでがある．　調査所の問題だけでもたいへんなのにこれ以上は背負い切れないそれにもう　しめきりも過ぎているから　とお断りする．

田村さんから首都圏市街地開発計画に伴う地質調査の経過をきいている中途から　応用地質課長から業務計画変更の事由　それに行政ベースで予算を要求したボーリング費用を大蔵省の都合で従来どおりの地調の特研予算に含ませてくるらしいという39年度予算の情報などを耳に入れる．

午後4時40分　3時ごろから図幅グループの方で開いている会合に急いで出席　地質調査所のビジョンについて何度目かの解説　調査所のもつべき行政機能などについて一くさり　議論のるつぼの一方は白熱するが　その片面では研究　研究の声つよく　調査所の将来なお多難を予想させる．　暖房の切れてしまった会議室で6時過ぎまで．

帰りの湘南は意外に空いている．　昨日からもって回っていた　久野教授の新丹那トンネルの地質調査報告書にはじめて眼をとおす．　8時半帰宅　娘敦子パーティにいって帰りが11時ごろになる由　心配しながら20日までのしめきり原稿に手をつけるが　いっこうに進まない．

以上はとく別気を使わずに引きだしたある1週間のわたしの日記である．　もっとも原文は項目程度のあらがきであるがそれに多少修飾をほどこしてはいる．　しかしとくにフィクションはない．　文中にでる名は　大部分　都合によって仮名にさせていただいた．

〔筆者は地質部長　工業用水課長を兼務
次回は〝だまっちやすまされない〟〕

（訂正）No. 114 地学漫筆 No. 6「石の芸術」は　No. 7 の誤りにつき訂正します

No. 113 p. 18「タコノキの果実化石発見さる」本文中下記のとおり訂正します

誤			正
p. 18	5行目	新第三紀	第三紀
	16行目	長さ10～15 cm	1～1.5m
	20行目	宮崎層群	日南層群
	22行目	宮崎層群	日南層群
	32行目	宮崎層群	日南層群
	32－33行目	中新世後期から鮮新世	第三紀前期
p. 19	2行目	宮崎層群	日南層群

——昭和38年度地質調査所出版物目録——

・地 質 図 幅

1：500,000 「京都」（京都）

1：200,000 「野辺地」（青森）

1： 50,000 「西徳富」「三渓」「雄久」（以上北海道）「岩館」（秋田）「霞露岳」「大槌」（以上岩手）「富山」「城端」（以上富山）「佐用」（兵庫）「三島」（愛媛）「久住」（大分）「西方」「垂水」（以上鹿児島）

・日本地質図索引図

Ⅲ 本州中部 Ⅳ 本州西部 四国

・地質図幅目録図（昭和38年度版）

・日本水理地質図・説明書

No. 4 釜無川 No. 5 香川

No. 6 愛媛

・北海道鉱床総覧図

Ⅰ. 新第三紀後期—第四紀 Ⅱ. 新第三紀

・物理探査調査研究一覧 第 Ⅳ 輯

・地質調査所報告

No. 200 番場 猛夫：本邦クロム鉱床の成因的研究

No. 201 Kiyoshi Seya : On the New Method of Analysis in Gravity Prospecting.

No. 202 宮本 弘道：地質調査所化学分析成果表Ⅲ

No. 203 種村 光郎：愛知県瀬戸地域の粘土および珪砂鉱床の地質学的鉱物学的研究

No. 204 Atsuyuki Mizuno : Paleogene and Early Neogene Molluscan Faunae in West Japan.

No. 205 Yasufumi Ishiwada : Benthonic Foraminifera off the Pacific Coast of Japan Referred to Biostratigraphy of the Kazusa Group.

地質調査所月報 第14巻 第4号

報 文

J. Chujo : Combination of the Sparking Sonic Prospecting System, the Gas Exploding Sonic Prospecting System and the Proton Magnetometer

武司秀夫：福島県耶麻郡熱塩加納村与内畑石膏鉱床（黒岩鉱床および安積郡湖南村安積石膏山を含む）

武司秀夫：福島県南会津郡只見町黒沢石膏鉱山

鈴木泰輔：北海道釧路炭田北西部地域の地質—主としてコイボクシヨコツ・クツチヤロシベツ川上流付近—

佐々木実 永田松三：常磐炭田磐崎鉱における炭田ガスの調査研究報告

佐々木実 永田松三：北海道釧路炭田釧路炭鉱における炭田ガスの調査研究報告

倉沢一 高橋清：熊本県金峰火山岩類の化学的性質

地質調査所月報 第14巻 第5号

報 文

稲井信雄：宮崎県大淀川水系岩瀬川ダム地点調査

沢村孝之助：瑞浪層群生俵層の珪藻について

武司秀夫：三重県伊賀上野広沢地区耐火粘土鉱床

小村幸二郎：宮崎県八戸鉱山の鉱床

牧 真一：新潟ガス田の有機物—炭化水素鉱床における有機物の研究 その四—

概 報

電気検層図からみた常磐炭田地区の電気的特性について —常磐中郷10号孔井電気検層—（武居・高木・畑瀬）

岐阜県山県郡美山村地内の螢石鉱床 （上野）

地質調査所月報 第14巻 第6号

報 文

岸 和男：冷却排水地下還流に関する調査報告 3 —東京都城北地区保土谷化学工業KKにおける試験報告—

高橋稠 後藤隼次：山梨県甲府盆地の地下水

森和雄 村下敏夫 後藤隼次：三重県四日市市およびその周辺における被圧地下水についての再検討

概 報

青森県淋代南部海域砂鉄調査（長谷川他）

地質調査所月報 第14巻 第7号

報 文

蔵田延男 高橋 稠：兵庫県西宮市工業用地下水調査報告

村下敏夫 野間泰二 比留川貴 小林竹雄：徳島県吉野川下流平野の地質と地下水

野間泰二 村下敏夫：愛媛県西条市の工業用水源確保に関する考察

概 報

常磐岩田新第三系の斜層理（長浜）

地質調査所月報 第14巻 第8号

報 文

安藤武 黒田和男 岡重文：愛媛県上浮穴地方の地すべり調査

大津秀夫 原田久光：グリンタフ地域における熱水性酸化鉄鉱物の産状について

大津秀夫 嶋崎吉彦 大町北一郎：大堀鉱山産 Stevensite について 山形県大堀鉱山の鉱床学的研究（第2報）

概 報

九州北部 平尾台石灰岩層中の不整合について（清原）

資 料

モホロビッチ面・マグマの発生深度および超塩基性岩の分布について（平山訳）

地質調査所月報 第14巻 第9号

報 文

岩崎章二 小尾中丸 金谷弘：北海道北見地域空中放射能探査

報告

杉山友紀　氏家明　田中信一：北海道道南地域自動車放射能探査報告

堀川義夫：羽越・会津地域自動車放射能探査報告

岩崎章二　小尾中丸：近畿中部地域自動車放射能探査報告

概　報

常磐炭田および白河含炭地における放射能強度について（青柳・宮下）

熊本県菊池市鉾ノ甲付近における含炭第三系の放射能強度について（古川・須貝）

資　料

褶曲のタイプとその起源（垣見・平山訳）

地質調査所月報　第14巻　第10号

報　文

河合正虎：山口県美弥市付近の中古生界について
—中国山地における後期中生代の地殻変動　第2報—

清原清人：九州地方の古生代石灰岩層の構造地質学的研究

山田敬一：北海道北見鉱山の銅・鉛・亜鉛鉱床
—とくに鉱脈の構造と脈質—

沢地孝之助　山口昇一：道東津別地域新第三系の化石珪藻による分帯

概　報

秋田県大館—花輪盆地における地質構造と鉱化作用とくにその鉱化作用について（北）

秋田県北東部銅・鉛・亜鉛鉱床地域における地化学探鉱の基礎的研究（東野・加藤・藤貫）

北秋田地域の航空写真測量について（藤本）

資　料

ザカルパチアの准辰砂（岸本訳）

地質調査所月報　第14巻　第11号

報　文

高島清　岸本文男　加藤甲壬：鹿児島県大口鉱山金銀鉱脈周辺における水銀元素の分布について（その1）

安藤厚　高島清：長野県竜王鉱山におけるゲルマニウムの分布について

佐々木実　永田松三：筑豊炭田赤池炭砿における炭田ガス調査研究報告

佐藤良昭：ＺＴＧ（ジルコン—電気石—ざくろ石）図からみた三池炭田古第三系の特徴

米谷宏：本邦水溶性天然ガスの微量成分

資　料

ザカルパチア地方新第三紀鉱体における鉱物共生関係(岸本訳)

地質調査所月報　第14巻　第12号

報　文

浜地忠男　五十嵐俊雄：新潟・山形県境小国・金丸地区の含ウラン鉱床について

林昇一郎　小尾五明：黒鉱式鉱床に伴なうウラン　その1
—島根県石見石膏鉱山地区—

関根節郎　望月常一　阿部智彦：陰イオン交換樹脂によるモナズ鉱石中のウラン分析方法

概　報

岩手県花巻市西鉛付近の新第三紀層基底部のウランの産状について（島津）

鳥取県飯盛山周辺地域におけるウラン鉱床地震探査の概要（平沢）

資　料

岩石学的過程における物理化学的問題(黒田訳)

地質調査所月報　第15巻　第1号

報　文

早川正巳　森喜義　鎌田清吉　藤田和矢：放電式音波探査による大阪湾地質構造の研究

岸本文男　高島清　加藤甲壬　東野徳夫　勝目一泰：鹿児島県大口鉱山金銀鉱脈周辺における水銀元素の分布について（その2）

佐藤良昭：唐津炭田および西彼杵半島古第三系の重鉱物組成

鈴木泰輔：釧路炭田浦幌地区常室川流域の地質
—とくに尺別夾炭層の岩相変化について—

資　料

Paleomagnetic methods による岩石年代の対比（江口訳）

地質調査所月報　第15巻　第2号

報　文

上村不二雄：下北半島に分布する長浜層の千枚岩類と　これを貫く火成岩類について
—東北地方グリンタフ地域の基盤岩類Ⅰ

片田正人　大沢穠：青森県南西部にみられる片状花崗岩類（白神岳花崗岩類）
—東北地方グリンタフ地域の基盤岩類Ⅱ—

徳永重元　尾上亨：常磐炭田における炭層の花粉分析研究報告その1　石城南部地区

徳永重元　尾上亨：宇部炭田における主要炭層の花粉分析（第一報）

狛武　三梨昂　松井寛：北海道長万部町Ｒ—1号井　2号井の長期観測研究報告

資　料

マントルの分化と地質構造に関する仮説（黒田訳）

地質調査所月報　第15巻　第3号

報　文

尾崎次男　菅野敏夫　後藤隼次　村上篁：熊本平野および周辺地域の工業用水源—工業用水源地域調査研究—

井上英二：西彼杵半島西部の古第三系　ならびに西彼杵層群下部の堆積環境

南雲昭三郎　川島威：新潟県中蒲原郡中之口地震探鉱調査技術報告

南雲昭三郎：新潟県中蒲原郡中之口地震探鉱調査第二次構造解析報告

資　料

深さによる火山岩層の後火成作用の特徴（黒田訳）

—・—・—・—

訂正　No.114　p.28　植物の葉は語る①　中第1図左側説明　3次脈は細脈（veinlet）に訂正します.

地質ニュース　第115号　3月号
定価 ¥170 〒12

昭和39年3月25日　発行

編集　工業技術院　地質調査所
発行人　林　久　雄
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段4の11
Tel.(331)7173・9387
振替口座　東京　32466
総発売元　政府刊行物販売所
東京都千代田区大手町1の5
Tel.(221)5 5 7 0
印刷所　共同印刷株式会社